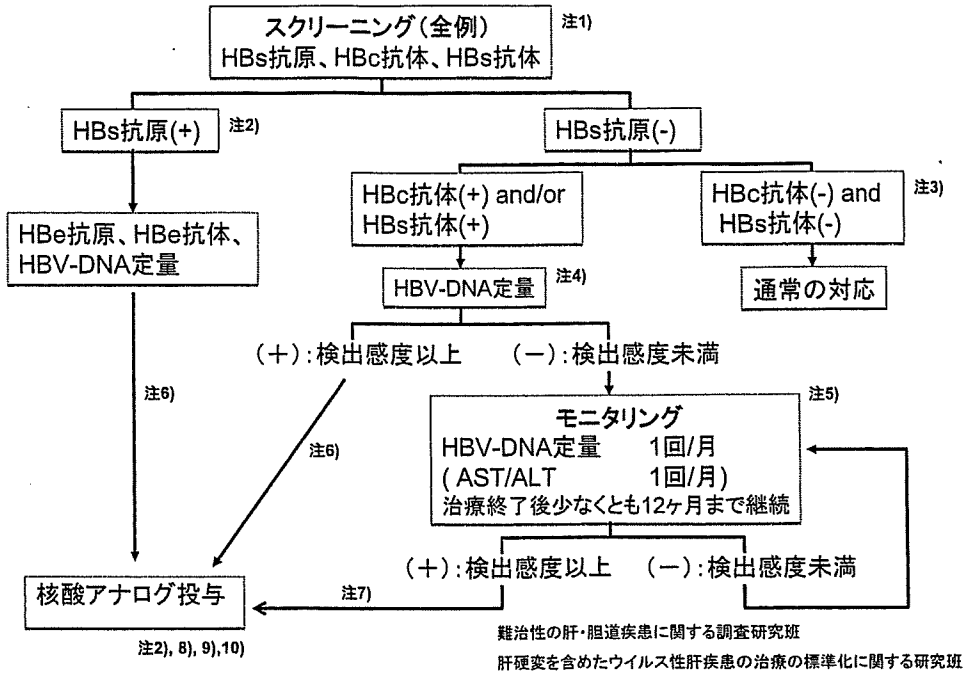

Fig. 1　免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン*

補足

*血液悪性疾患に対する強力な免疫・抑制化学療法中あるいは終了後にHBs抗原陽性あるいはHBs抗原陰性例の一部にHBV再活性化によりB型肝炎が発症し，その中には劇症化する症例があり，注意が必要である．その他の疾患においても治療によるHBV再活性化のリスクを考慮して対応する必要がある．また，ここで推奨する核酸アナログ予防投与のエビデンスはなく，劇症化予防効果を完全に保証するものではない．

注1)　CLIA法で測定することが望ましい．

注2)　HBs抗原陽性例は肝臓専門医にコンサルトすること．全ての症例で核酸アナログ投与にあたっては肝臓専門医にコンサルトするのが望ましい．

注3)　初回治療時にHBc抗体，HBs抗体未測定の再治療例では抗体価が低下している場合があり，HBV-DNA定量検査などによる精査が望ましい．

注4)　PCR法およびリアルタイムPCR法により実施する．より検出感度の高いリアルタイムPCR法が望ましい．

注5)　リツキシマブ・ステロイド使用例，造血細胞移植例はHBV再活性化の高リスクであり，注意が必要である．フルダラビンは強力な免疫抑制作用を有するが，HBV再活性化のリスクは不明であり，今後注意が必要である．

注6)　免疫抑制・化学療法を開始する前，できるだけ早期に投与を開始するのが望ましい．

注7)　免疫抑制・化学療法中はHBV-DNA定量検査が検出感度以上になった時点で直ちに投与を開始する．

注8)　核酸アナログはエンテカビルの使用を推奨する．

注9)　下記の条件を満たす場合には核酸アナログ投与の終了を検討して良い．
スクリーニング時にHBs抗原（+）例ではB型慢性肝炎における核酸アナログ投与終了基準を満たす場合．スクリーニング時にHBc抗体（+）and/or HBs抗体（+）例では，(1) 免疫抑制・化学療法終了後，少なくとも12カ月間は投与を継続すること．(2) この継続期間中にALT（GPT）が正常化していること．(但しHBV以外にALT異常の原因がある場合は除く) (3) この継続期間中にHBV-DNAが持続陰性化していること．

注10)　核酸アナログ投与終了後12カ月間は厳重に経過観察する．経過観察方法は各核酸アナログの使用上の注意に基づく．経過観察中にHBV-DNA定量検査が検出感度以上になった時点で直ちに投与を再開する．

に比して劇症化する頻度が高率で，死亡率も高いことが明らかになった[11)~13)]．また，厚生労働省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班で実施している劇症肝炎・遅発性肝不全(LOHF)の全国調査でもここ数年，特に悪性リンパ腫に対しリツキシマブとステロイドを併用したR-CHOP治療例からの劇症化やde novo B型肝炎が増加傾向にあり，予後不良であった[14)15)]．以上のような経緯から，早急なHBV再活性化対策が必要となり，両研究班が合同でワーキンググループを立ち上げ，Fig. 1に示すガイドラインを作成した．

ガイドラインの要旨は以下のとおりである．まずHBV再活性化リスク群の同定を目的にスクリーニング検査として，全ての症例にHBs抗原およびHBc抗体，HBs抗体を測定する．HBs抗原が陽性の場合はさらにHBe抗原，HBe抗体，HBV-DNA定量検査を実施する．HBs抗原陽性例では，無症候性キャリアだけではなく，慢

性肝炎，肝硬変例が含まれる可能性があるので肝臓専門医にコンサルトする必要がある．HBs抗原陽性例での再活性化のリスクは大きいので，基本的に核酸アナログの予防投与を実施する．但し，HBV再活性化のリスクが少ない悪性疾患以外の若年HBe抗原陽性無症候性キャリアに対するステロイド治療例などでは，核酸アナログ予防投与の有効性に関するエビデンスはなく経過観察など他の選択肢があり，適応は慎重に判断する必要がある．HBs抗原陰性でHBc抗体，HBs抗体いずれも陰性の場合は通常の対応とする．HBs抗原陰性でHBc抗体ないしHBs抗体が陽性，すなわち感染既往例と判断される場合は更にHBV-DNA定量検査を実施し，HBV-DNAが陽性の場合は核酸アナログの予防投与を行う．一方，HBV-DNAが陰性の場合はHBV-DNAを毎月モニタリングしながら，陽性化した時点で直ちに核酸アナログを投与する．特にリツキシマブ・ステロイド使用例，造血細胞移植例は再活性化のリスクが高いので慎重な対応が必要である．核酸アナログ予防投与例の投与中止時期に関する明確なエビデンスはないが，HBs抗原陰性，HBc抗体ないしHBs抗体陽性例では免疫抑制・化学療法終了後も12カ月間は投与を継続し，この継続期間中に一定の基準を満たせば投与終了も可能とした．以下にガイドライン作成にあたり論点になった事項を補足する．①スクリーニングにあたってはHBs抗原だけではなくHBc抗体，HBs抗体をできるだけ感度の高い検査法で実施する必要がある．HBs抗原陰性でHBc抗体，HBs抗体いずれも陰性の場合でも，患者が既に免疫抑制状態にある場合には抗体が検出されないことがあり，HBV-DNA定量検査まで測定することが望ましい．②B型キャリア例の急性増悪では発症後早期の核酸アナログ治療が有効であるが，HBV再活性化による劇症化例は発症後の核酸アナログ治療では予後不良であり，発症前の予防投与が必要である．しかし既往感染例でのHBV再活性化率は明らかでなく，また本邦におけるHBc抗体ないしHBs抗体陽性の既往感染例の頻度は高率であることより，全ての症例に核酸アナログの予防投与を実施するのは医療経済的にも困難である．Huiらの報告[16]ではHBs抗原陰性例のHBV再活性化では，HBV-DNAが陽性化し，肝炎が発症するまでに12～28週（平均18.5週）を要しており，したがってHBV-DNAをPCR法またはリアルタイムPCR法で毎月モニタリングし，検出感度以上になった時点で直ちに核酸アナログを投与しても肝炎の重症化は予防可能と推測される．③核酸アナログ製剤はB型慢性肝炎の治療ガイドライン[17]に準拠して，エンテカビル投与を推奨している．しかし，投与期間が長期に及ばない場合など，より安価なラミブジンへの代用も検討の余地がある．④核酸アナログ投与終了に関する明確な基準はない．HBs抗原陽性例では使用する各核酸アナログの投与終了基準に準ずる．HBs抗原陰性，HBc抗体ないしHBs抗体陽性例では免疫抑制・化学療法終了後も12カ月間は投与を継続し，この継続期間中にALTの正常化とHBV-DNAの持続陰性化が見られる場合は投与終了の検討も可能である．但し，HBV以外にALT異常の原因がある場合はALTの正常化は必須ではない．また，核酸アナログ予防投与終了後のHBV再活性化例の報告もあり，投与終了後も更に12カ月間は厳重な経過観察が必要である[18]．

本ガイドライン作成にあたってはワーキンググループ委員の他，名古屋市立大学腫瘍・免疫内科学および鹿児島大学大学院消化器疾患・生活習慣病学血液内科グループの協力および助言を得た．今後は本ガイドラインを血液内科をはじめとする関係領域に周知させていくとともに，各分野と協力して本ガイドラインの有効性を検証していくことが重要である．

謝辞：本研究は厚生労働省科学研究費難治性疾患克服研究事業および肝炎等克服緊急対策研究事業からの助成金によって支援された．

文　献

1) Lok AS, Liang RH, Chiu EK, et al. Reactivation of hepatitis B virus replication in patients receiving cytotoxic chemotherapy. Report of a prospective study. Gastroenterology 1991; 100: 182—188
2) Yeo W, Johnson PJ. Diagnosis, prevention and management of hepatitis B virus reactivation during anticancer therapy. Hepatology 2006; 43: 209—220
3) Chou CK, Wang LH, Lin HM, et al. Glucocorticoid stimulates hepatitis B viral gene expression in cultured human hepatoma cells. Hepatology 1992; 16: 13—18
4) Lok AS, McMahon BJ. Chronic hepatitis B. Hepatology 2007; 45: 507—539
5) Kuhns M, McNamara A, Mason A, et al. Serum and liver hepatitis B virus DNA in chronic hepatitis B after sustained loss of surface antigen. Gastroenterology 1992; 103: 1649—1656
6) Fong TL, Di Bisceglie AM, Gerber MA, et al. Per-

sistence of hepatitis B virus DNA in the liver after loss of HBsAg in chronic hepatitis B. Hepatology 1993; 18: 1313—1318
7) Michalak TI, Pasquinelli C, Guilhot S, et al. Hepatitis B virus persistence after recovery from acute viral hepatitis. J Clin Invest 1994; 93: 230—239
8) Hui CK, Sun J, Au WY, et al. Occult hepatitis B virus infection in hematopoietic stem cell donors in a hepatitis B virus endemic area. J Hepatol 2005; 42: 813—819
9) Kawatani T, Suou T, Tajima F, et al. Incidence of hepatitis virus infection and severe liver dysfunction in patients receiving chemotherapy for hematologic malignancies. Eur J Haematol 2001; 67: 45—50
10) Dhédin N, Douvin C, Kuentz M, et al. Reverse seroconversion of hepatitis B after allogeneic bone marrow transplantation: a retrospective study of 37 patients with pretransplant anti-HBs and anti-HBc. Transplantation 1998; 66: 616—619
11) 清澤研道，梅村武司，熊田博光，他．免疫抑制・化学療法中に発生するde novo B型急性肝炎の発症機序の検討．「厚生労働省肝炎等克服緊急対策事業「B型及びC型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究」班　平成18年度研究報告書」2007，p30—32
12) 田中榮司，梅村武司，清澤研道，他．de novo B型急性肝炎の全国調査成績．「厚生労働省肝炎等克服緊急対策事業「肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究」班　平成19年度研究報告書」2008，p34—35
13) Umemura T, Tanaka E, Kiyosawa K, et al. Mortality secondary to fulminant hepatic failure in patients with prior resolution of hepatitis B virus infection in Japan. Clin Infect Dis 2008; 47: e52—56
14) 坪内博仁，桶谷　真，井戸章雄，他．劇症肝炎及び遅発性肝不全の全国集計（2005年）．「厚生労働省難治性疾患克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班　平成18年度研究報告書」2007，p90—100
15) 坪内博仁，桶谷　真，井戸章雄，他．劇症肝炎及び遅発性肝不全の全国集計（2006年）．「厚生労働省難治性疾患克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班　平成19年度研究報告書」2008，p83—94
16) Hui CK, Cheung WW, Zhang HY, et al. Kinetics and risk of de novo hepatitis B infection in HBsAg-negative patients undergoing cytotoxic chemotherapy. Gastroenterology 2006; 131: 59—68
17) 熊田博光．肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究．「厚生労働省肝炎等克服緊急対策事業「肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究」班　平成19年度研究報告書」2008，p1—11
18) Dai MS, Chao TY, Kao WY, et al. Delayed hepatitis B virus reactivation after cessation of preemptive lamivudine in lymphoma patients treated with rituximab plus CHOP. Ann Hematol 2004; 83: 769—774

Prevention of immunosuppressive therapy or chemotherapy-induced reactivation of hepatitis B virus infection —Joint report of the Intractable Liver Diseases Study Group of Japan and the Japanese Study Group of the Standard Antiviral Therapy for Viral Hepatitis—

Hirohito Tsubouchi[1)*], Hiromitsu Kumada[2)], Kendo Kiyosawa[3)], Satoshi Mochida[4)], Isao Sakaida[5)], Eiji Tanaka[6)], Takafumi Ichida[7)], Masashi Mizokami[8)], Kazuyuki Suzuki[9)], Shinsyo Yoshiba[10)], Hisataka Moriwaki[11)], Toshifumi Hibi[12)], Norio Hayashi[13)], Norihiro Kokudo[14)], Tomoo Fujisawa[15)], Hiromi Ishibashi[16)], Yasuhiko Sugawara[14)], Hiroshi Yatsuhashi[16)], Akio Ido[1)], Yasuhiro Takikawa[9)], Kazuaki Inoue[10)], Makoto Oketani[1)], Hirofumi Uto[1)], Nobuaki Nakayama[4)], Takafumi Naiki[11)], Shinichiro Tada[12)], Shinichi Kiso[13)], Koji Yano[16)], Ryujin Endo[9)], Yasuhito Tanaka[8)], Takeji Umemura[6)], Kotaro Kumagai[1)]

Key words: fulminant hepatitis　HBV reactivation　*de novo* hepatitis B　nucleoside analog　rituximab

Kanzo 2009; 50: 38—42

1) Digestive Disease and Life-style related Disease, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences
2) Department of Hepatology, Toranomon Hospital
3) Department of Internal Medicine, Nagano Red Cross Hospital
4) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Saitama Medical University
5) Department of Gastroenterology and Hepatology, Yamaguchi University Graduate School of Medicine
6) Department of Internal Medicine, Hepatology, and Gastroenterology, Shinshu University School of Medicine
7) Department of Gastroenterology, Juntendo University Shizuoka Hospital
8) Department of Clinical Molecular Informative Medicine, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences
9) First Department of Internal Medicine, Iwate Medical University
10) Division of Gastroenterology, Showa University Fujigaoka Hospital
11) Department of Gastroenterology, Gifu University Graduate School of Medicine
12) Department of Internal Medicine, School of Medicine, Keio University
13) Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka University Graduate School of Medicine
14) Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery Division, Artificial Organ and Transplantation Division, Department of Surgery, Graduate School of Medicine, University of Tokyo
15) Children's Center for Health and Development; Yokohama City Tobu Hospital
16) Clinical Research Center and Clinical Laboratory, NHO Nagasaki Medical Center
*Corresponding author: htsubo@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp

肝臓　50巻10号　588-589（2009）

＜速　報＞

核酸アナログ療法中のB型関連肝癌に対する肝癌再発予測マーカーとしてのHBコア関連抗原の有用性

保坂　哲也[1)*]　鈴木　文孝[1)]　小林　正宏[1)]　平川　美晴[1)]　川村　祐介[1)]
八辻　寛美[1)]　瀬崎ひとみ[1)]　芥田　憲夫[1)]　鈴木　義之[1)]　斎藤　聡[1)]
荒瀬　康司[1)]　池田　健次[1)]　小林万利子[2)]　熊田　博光[1)]

緒言：B型肝疾患に対する核酸アナログ療法の有効性は広く知られており，ラミブジンにおいては投与により発癌率を抑制することが既に報告されている[1)2)]．しかしながら経過観察期間が長くなるにつれ肝発癌例も増加しつつある．また血中HBV-DNA量が抑制されているにもかかわらず，肝癌根治後の再発例も散見される．そこで今回我々は核酸アナログ投与中の肝癌について，肝癌根治療法後の再発予測マーカーとしてのHBコア関連抗原（HBcrAg）の有用性を検討した．

対象と方法：2001年～2008年までに当院で初発の肝細胞癌と診断されたB型肝癌症例で核酸アナログ投与中に肝発癌した54例を対象とした．肝癌発症時の核酸アナログ投与内容の内訳はラミブジン29例，ラミブジン＋アデフォビル併用17例，エンテカビル8例であった．肝癌治療法の内訳は外科切除36例，経皮的局所治療18例であった．HBcrAg測定は既報のごとくCLEIA法を[3)]，HBV-DNA量はアンプリコア法を用いた．肝癌根治後の再発に寄与する因子についてCox比例ハザードモデルを用いて，単変量及び多変量解析を行い検討した．

結果：発癌時のAST/ALT値は31/29 IU/l(中央値)，genotype Cが92.6%（50/54）で，HBe抗原陽性例は42.6%（23/54），血清HBV-DNA量は＜2.6 log copies/ml(中央値)であった．血清HBcrAg量は5.0 logU/ml(中央値)であった．血清HBV-DNA量＜2.6 log copies/mlであった症例35例中，HBcrAg量≧3.0 logU/mlであった症例が29例（82.9%），≧4.8 logU/mlであった症例は13例（37.1%）であった．核酸アナログ投与開始から発癌までの投与期間は2.2年（中央値）であった．

肝癌再発は38.9%（21/54）で認め，根治後から再発までの期間は14カ月（中央値）であった．再発に寄与する因子について単変量解析を行ったところ，HBV-DNA量≧3.0 log copies/ml，HBcrAg≧4.8 logU/ml，腫瘍数多発，門脈浸潤ありの4因子が抽出され，さらに多変量解析を行ったところ，独立因子としてHBcrAg≧4.8 logU/ml，門脈浸潤の2因子が抽出された(Table)．

考察：今回の検討では核酸アナログ投与中の発癌例は血清HBV-DNA量が低値に抑制されているにもかかわらず，HBcrAg量は十分抑制されていない例が認められた[4)]．核酸アナログが投与されていないB型肝癌において，血清HBV-DNA量が肝癌再発に関係するという報告はされている[5)]．しかしながら今回の対象症例のように核酸アナログ投与中の場合はHBV-DNA量よりHBcrAg量の方が肝癌根治後の再発予測マーカーとして有用であると考えられる．

索引用語：HBコア関連抗原，肝癌再発予測，核酸アナログ

文献：1) Liaw YF, Sung JJ, Chow WC, et al. N Engl J Med 2004; 351: 1521—1531　2) Matsumoto A, Tanaka E, Rokuhara A, et al. Hepatol Res 2005; 32: 173—184　3) Kimura T, Rokuhara A, Sakamoto Y, et al. J Clin Microbiol 2002; 40: 439—445　4) 辻　邦彦，西森博幸，松居剛志，他．肝臓　2009；50：166—167　5) Kubo S, Hirohashi K, Tanaka H, et al. Cancer 2000; 88: 1016—1024

1) 虎の門病院肝臓センター
2) 肝臓研究室
*Corresponding author: hosa-p@toranomon.gr.jp

＜受付日2009年8月11日＞＜採択日2009年9月1日＞

Table Factors associated with recurrence of HCC by univariate and multivariate analysis.

	Univariate		Multivariate	
factors	Hazard Ratio (95%CI)	P	Hazard Ratio (95%CI)	P
HBeAg (Positive)	1.53 (0.63-3.70)	0.343		
HBV DNA ($\geq$ 3.0 logcopies/mL)	2.49 (1.03-6.00)	0.042		
HBcrAg ($\geq$ 4.8 logU/mL)	10.4 (2.39-45.0)	0.002	8.50 (1.95-37.1)	0.004
AST ($\geq$ 50 IU/L)	2.47 (0.98-6.20)	0.055		
ALT ($\geq$ 40 IU/L)	2.37 (0.99-5.71)	0.054		
Platelets count ($<$ 10^5 /mm^3)	2.20 (0.81-6.02)	0.123		
Serum Albumin ($<$ 3.5 g/dl)	1.39 (0.53-3.63)	0.505		
Serum bilirubin ($\geq$ 1.5 mg/dl)	1.11 (0.62-2.00)	0.713		
Prothorombin time ($<$ 80%)	2.23 (0.51-9.82)	0.286		
ICG-R 15 ($\geq$ 30%)	0.54 (0.16-1.87)	0.332		
AFP levels ($\geq$ 100 ng/mL)	1.81 (0.74-4.44)	0.194		
DCP levels ($\geq$ 100 mAU/mL)	2.09 (0.81-5.39)	0.129		
Tumor size ($\geq$ 21 mm)	2.02 (0.81-5.07)	0.133		
Tumor number (multiple)	4.03 (1.31-12.4)	0.015		
Presence of portal vein invasion	5.39 (1.69-17.2)	0.004	3.63 (1.15-11.5)	0.028

Abbreviation: AST, aspartate aminotransferase; ALT, alaine aminotransferase; ICG-R15: indocyanine green retention test at 15 min; AFP, alpha-fetoprotein; DCP, des-γ-carboxylprothorombin,

英文要旨

Low hepatitis B virus core-related antigen is a predictor of absence in post-treatment recurrence of hepatocellular carcinoma during antiviral therapy

Tetsuya Hosaka[1]*, Fumitaka Suzuki[1], Masahiro Kobayashi[1], Miharu Hirakawa[1], Yusuke Kawamura[1], Hiromi Yatsuji[1], Hitomi Sezaki[1], Norio Akuta[1], Yoshiyuki Suzuki[1], Satoshi Saitoh[1], Yasuji Arase[1], Kenji Ikeda[1], Mariko Kobayashi[2], Hiromitsu Kumada[1]

The tumor recurrence rate of hepatocellular carcinoma (HCC) is still high even in patients who receive a curative therapy. We analyzed predictive value of HBV-related viral markers, including HBcrAg, HBV DNA, and HBeAg, for HCC recurrence in the patients who developed HCC during antiviral nucleot(s)ide analogues therapy. By univariate analysis, HBV DNA, HBcrAg, tumor number and presence of portal vein invasion were significant predictive factors. By multivariate analysis, HBcrAg and presence of portal vein invasion were independent and significant predictive factors of recurrence after curative therapy for HCC. We conclude that HBcrAg is useful as a predictor of post-treatment recurrence of HCC after curative therapy in patients who received antiviral therapy.

Key words: HB core-related antigen, prediction of recurrence of HCC, nucleot(s)ide analogues

Kanzo 2009; 50: 588—589

1) Department of Hepatology, Toranomon Hospital, Tokyo
2) Department of Research Institute for Hepatology, Toranomon Branch Hospital, Kawasaki
*Corresponding author: hosa-p@toranomon.gr.jp

Cancer Letters 275 (2009) 27–34

Contents lists available at ScienceDirect

Cancer Letters

journal homepage: www.elsevier.com/locate/canlet

A novel amplification target, *ARHGAP5*, promotes cell spreading and migration by negatively regulating RhoA in Huh-7 hepatocellular carcinoma cells

Yasuyuki Gen [a], Kohichiroh Yasui [a,*], Keika Zen [a], Tomoaki Nakajima [a], Kazuhiro Tsuji [a], Mio Endo [a], Hironori Mitsuyoshi [a], Masahito Minami [a], Yoshito Itoh [a], Shinji Tanaka [b], Masafumi Taniwaki [c], Shigeki Arii [b], Takeshi Okanoue [a,d], Toshikazu Yoshikawa [a]

[a] *Molecular Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, 465 Kajii-cho, Kamigyo-ku, Kyoto 602-8566, Japan*
[b] *Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, 1-5-45 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8510, Japan*
[c] *Molecular Hematology and Oncology, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto, 465 Kajii-cho, Kamigyo-ku, Kyoto 602-8566, Japan*
[d] *Department of Hepatology, Saiseikai Suita Hospital, Suita, Osaka 564-0013, Japan*

ARTICLE INFO

Article history:
Received 19 August 2008
Received in revised form 23 September 2008
Accepted 30 September 2008

Keywords:
ARHGAP5
p190-B RhoGAP
RhoA
Amplification
Hepatocellular carcinoma

ABSTRACT

RhoA, a member of the Rho family of small GTPases, directs the organization of the actin cytoskeleton and is involved in regulating cell shape and movement. Its activity is negatively regulated by p190-B RhoGAP (GTPase-activating protein). We investigated DNA copy number aberrations in human hepatocellular carcinoma and esophageal squamous cell carcinoma cell lines using a high-density oligonucleotide microarray and found a novel amplification at chromosomal region 14q12. We identified *ARHGAP5* (the gene encoding p190-B RhoGAP) as a probable target for the amplification at 14q12, and our results showed that p190-B RhoGAP promotes cells spreading and migration by negatively regulating RhoA activity in Huh-7 hepatocellular carcinoma cells.

1. Introduction

Members of the Rho family of small GTPases act as molecular switches. In response to extracellular signals, they direct the organization of the actin cytoskeleton and alter gene expression [1]. Rho proteins, which include the much-studied Cdc42, Rac1 and RhoA, are involved in regulating cell shape, polarity and movement and establishing cell-cell junctional complexes. Accordingly, their activity is tightly controlled by regulatory proteins that determine whether GTP or GDP is bound. Rho proteins are activated by guanine nucleotide exchange factors, which catalyze the release of GDP and thus allow GTP to bind the proteins. Rho proteins in turn are inactivated by Rho GTPase-activating proteins (GAPs), which bind to the Rho proteins and induce them to hydrolyze their bound GTP to GDP. p190-B RhoGAP, a member of the RhoGAP family, negatively regulates RhoA activity [2,3].

Amplification of DNA in certain regions of chromosomes plays a crucial role in the development and progression of human malignancies, specifically when proto-oncogenic target genes within those amplicons are overexpressed. Oncogenes that are often amplified in cancers include *MYC*, *ERBB2* and *CCND1*.

In the present study, we investigated DNA copy number aberrations in human hepatocellular carcinoma (HCC) and

* Corresponding author. Tel.: +81 75 251 5519; fax: +81 75 251 0710.
E-mail address: yasuik@koto.kpu-m.ac.jp (K. Yasui).

0304-3835/$ - see front matter © 2008 Elsevier Ireland Ltd. All rights reserved.
doi:10.1016/j.canlet.2008.09.036

esophageal squamous cell carcinoma (ESCC) cell lines and found a novel amplification at chromosomal region 14q12. Because the region may harbor one or more proto-oncogenes whose overexpression following amplification contributes to the initiation or progression of HCC and ESCC, we carried out molecular definition of the amplicon. We show here that the p190-B RhoGAP gene (*ARHGAP5*) within the 14q12 amplicon is amplified and overexpressed, and that p190-B RhoGAP promotes cell spreading and migration in Huh-7 hepatocellular carcinoma cells.

2. Materials and methods

2.1. Cell lines

A total of 10 HCC cell lines (JHH-6, JHH-7, SNU354, SNU398, SNU423, SNU475, Huh-1, Huh-7, HLE and PLC/PRF/5) and 10 ESCC cell lines (T.T, EC-GI-10, KYSE140, KYSE220, TE-4, TE-5, TE-6, TE-10, TE-14 and TE-15) were examined. All cell lines were maintained in Dulbecco's modified Eagle's medium (DMEM) supplemented with 10% fetal calf serum (FCS). Genomic DNA was isolated from each cell line using the Puregene DNA isolation kit (Gentra, Minneapolis, MN, USA).

2.2. Array analysis

Array analyses were performed using the GeneChip Mapping 250K Sty array (Affymetrix, Santa Clara, CA, USA) according to the manufacturer's instructions. In brief, 250 ng of genomic DNA was digested with a restriction enzyme (StyI), ligated to an adaptor and amplified by PCR. Amplified products were fragmented, labeled by biotinylation and hybridized to the microarrays. Hybridization was detected by incubation with streptavidin–phycoerythrin conjugate, and the array was scanned. Analysis was performed as previously described [4]. Copy number changes were calculated using the Copy Number Analyzer for Affymetrix GeneChip Mapping Arrays (CNAG; http://www.genome.umin.jp) [5].

2.3. Fluorescence in situ hybridization (FISH)

We performed FISH using three bacterial artificial chromosomes (BACs), RP11-113E19, RP11-431H16 and RP11-54H22 as probes (Invitrogen, Carlsbad, CA, USA), as described previously [6]. The BACs were selected based on homology with locations in the human genome according to the database provided by the UCSC (http://genome.ucsc.edu/).

2.4. Real-time quantitative PCR

We quantified genomic DNA and mRNA using a real-time fluorescence detection method, as described previously [6]. The primers used were as follows: *ARHGAP5* mRNA (forward, 5′-CATCTGTTTTTGGCCAACCT-3′; reverse, 5′-gtggaggagccacaatgttt-3′); *HEATR5A* mRNA (forward, 5′-TGTGCCTCCTACTCATGCTG-3′; reverse, 5′-gagatggcctgagct tgaac-3′); *c14orf126* mRNA (forward, 5′-gtgctttttcaaggga gctg-3′; reverse, 5′-ttcctccaagggtagcttga-3′); *NUBPL* mRNA (forward, 5′-cttggccttgtccaaaacat-3′; reverse, 5′-acaattggc tggcctgtatc-3′). These primers were designed using Primer3 (http://frodo.wi.mit.edu/cgi-bin/primer3/primer3_www.cgi) based on sequence data obtained from the NCBI database (http://www.ncbi.nlm.nih.gov/). *GAPDH* and long interspersed nuclear element 1 (LINE-1) were used as endogenous controls for mRNA and genomic DNA levels, respectively.

2.5. RNA interference (RNAi)

For RNAi, small interfering RNA (siRNA) duplex oligoribonucleotides targeting *ARHGAP5* (5′-CAAGATCATAATATCAATCTA-3′) and control (non-silencing) siRNA duplexes were synthesized by QIAGEN (Valencia, CA, USA). The siRNAs were delivered into Huh-7 cells using HiPerfect Transfection Reagent (QIAGEN), according to the manufacturer's protocol.

2.6. Immunoblotting

Immunoblots were prepared according to previously reported methods [7]. Cell lysates (20 μg protein per sample) were separated by sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis on 10% acrylamide gels. Anti-p190-B RhoGAP monoclonal antibody was obtained from BD Transduction Laboratories (Lexington, KY, USA); anti-RhoA monoclonal antibody was from Santa Cruz Biotechnology (Santa Cruz, CA, USA); and anti-β-actin monoclonal antibody was from Sigma–Aldrich (Tokyo, Japan). For immunoblotting, we used anti-p190-B RhoGAP, anti-RhoA and anti-β-actin at dilutions of 1:250, 1:100 and 1:5000, respectively. For secondary immunodetection, we used anti-mouse IgG (Amersham, Tokyo, Japan) diluted 1:5000. Protein binding was detected using the ECL system (Amersham).

2.7. RhoA activity assay

Active RhoA levels were measured using the enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA)-based G-LISA RhoA activation assay Biochem Kit (Cytoskeleton, Denver, CO, USA) according to the manufacturer's instructions. In brief, Huh-7 cells were transfected with siRNA targeting *ARHGAP5* or negative control siRNA, or were left untreated. Cells were then cultured under the standard conditions in DMEM containing 10% FCS. After 48 h, cells were harvested for the RhoA activity assay or trypsinized and held in suspension for 1 h in DMEM containing 1% FCS. The suspended cells were then plated on 6-well plates coated with 5 μg/ml fibronectin (BD Transduction Laboratories) and harvested for the RhoA activity assay at the indicated time points. For the RhoA activity assay, cells were lysed in 70 μl of G-LISA lysis buffer, scraped into tubes and snap frozen in liquid nitrogen. Cell lysates were subsequently thawed, clarified for 2 min at 10,000g, and protein concentrations were normalized between the various time points. Equal amounts of total protein were added to a 96-well plate coated with the Rho-binding domain of Rho effector pro-

teins (which bind active GTP-bound Rho) in triplicate and incubated at 4 °C for 30 min with vigorous shaking. Active Rho levels were determined by subsequent incubations with anti-Rho antibody and secondary horseradish peroxidase-conjugated antibody for 45 min each at room temperature. After adding developing solution, the level of active Rho was determined by measuring absorbance at 490 nm using an ELISA plate reader. Equal loading of total RhoA protein at each time point was determined via immunoblotting using anti-RhoA antibody as described above. Experiments were repeated at least three times.

2.8. Immunofluorescence

Huh-7 cells were transfected with siRNA targeting *ARHGAP5* or negative control siRNA or were left untreated. Cells were harvested 48 h after transfection, suspended for 1 h in DMEM containing 1% FCS and then plated on glass slides coated with fibronectin for 10, 20, 40, 60 or 180 min. Cells were fixed for 10 min in 3.7% formaldehyde, permeabilized for 2 min in 1% Triton X-100 and incubated for 1 h with a blocking buffer (phosphate-buffered saline containing 3% bovine serum albumin). The cells were then incubated for 1 h at room temperature with anti-p190-B RhoGAP monoclonal antibody diluted 1:200 in blocking buffer. Fluorescein isothiocyanate (FITC)-conjugated anti-mouse IgG (Cappel, Aurora, OH, USA) was used to detect the primary antibody. Actin filaments and nuclei were counterstained with rhodamine-phalloidin (Molecular Probes, Eugene, OR, USA) and 4',6-diamidino-2-phenylindole (DAPI; Sigma–Aldrich), respectively.

2.9. Monolayer wound healing assay

Huh-7 cells were transfected with siRNA targeting *ARHGAP5* or negative control siRNA or left untreated. After 24 h, cells in DMEM with 1% FCS were seeded on glass slides coated with fibronectin and allowed to adhere overnight.

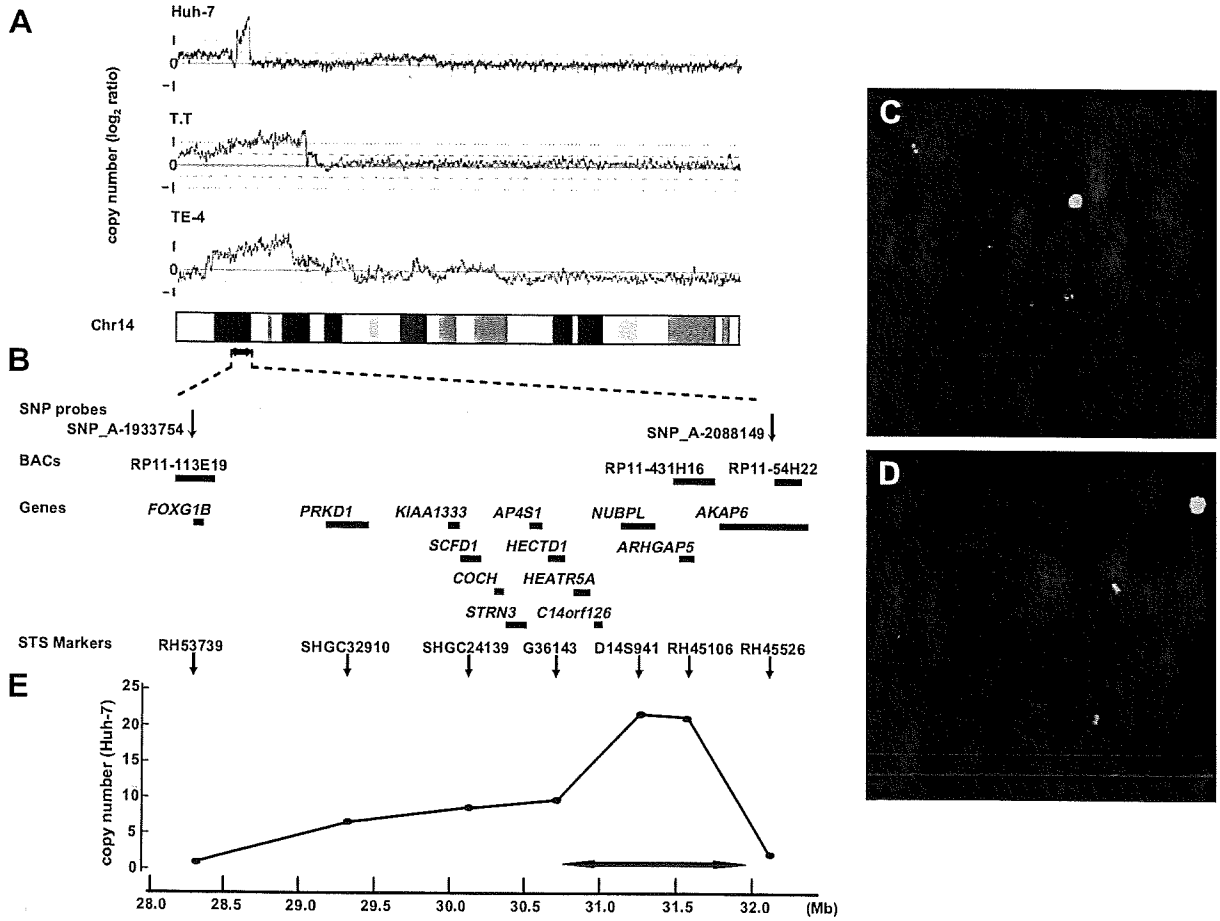

Fig. 1. Map of the amplicon at 14q12. (A) Copy number profiles for chromosome 14 in Huh-7, T.T and TE-4 cells. Copy number values were determined by GeneChip Mapping 250 K array analyses. (B) The positions of the Affymetrix SNP probes, three BACs used as probes for FISH experiments, the 13 genes within the 14q12 amplicon, and the seven STS markers used for real-time quantitative PCR on genomic DNA are shown according to the UCSC genome database (http://genome.ucsc.edu/). (C and D) Representative images of two-color FISH on metaphase chromosomes from Huh-7 cells using BACs: paired RP11-431H16 (green; C) and RP11-113E19 (red; C), or paired RP11-431H16 (green; D) and RP11-54H22 (red; D). (E) Copy numbers at the seven STS marker loci in Huh-7 cells as measured by real-time quantitative PCR with reference to LINE-1 controls. Values are normalized such that the copy number in genomic DNA derived from normal lymphocytes has a value of 2. The smallest region of amplification is indicated (arrow).

We scratched wounds in the cell monolayer using a sterile 200-μl pipet tip, rinsed the cells with phosphate-buffered saline and added DMEM containing 10% FCS with or without mitomycin C (10 μg/ml, Nacalai Tesque, Kyoto, Japan). Cells were allowed to migrate into the wound for 0, 12, or 24 h before fixation. Cells were stained with Giemsa stain (Nacalai Tesque) or were triple-labeled with anti-p190-B RhoGAP, rhodamine-phalloidin and DAPI as described above. Wound widths were measured in three randomly chosen regions. Experiments were repeated at least three times.

2.10. Statistical analysis

Analysis of variance (ANOVA) was performed using SPSS 15.0 software (SPSS Inc., Chicago, IL, USA). *P* values of <0.05 were considered significant.

3. Results

3.1. Detection of 14q12 amplicon in HCC and ESCC cell lines by array analyses

We screened for DNA copy number aberrations in 10 HCC cell lines and 10 ESCC cell lines using GeneChip Mapping 250 K array analysis. Of the 20 cell lines, one HCC cell line, Huh-7, and two ESCC cell lines, T.T and TE-4, commonly exhibited copy number gains at chromosomal region 14q12 (Fig. 1A). In particular, Huh-7 cells showed a high-level gain indicative of amplification in a narrow region on 14q12 between the positions recognized by the Affymetrix SNP_A-1933754 and SNP_A-2088149 probes. To confirm amplification in Huh-7 cells, we performed FISH analyses using BACs RP11-113E19, RP11-431H16 and RP11-54H22 as probes (Fig. 1B–D). BAC RP11-431H16 generated strong signals as a small homogeneously staining region (HSR), indicating amplification (Figs. 1C, D). In contrast, BACs RP11-113E19 or RP11-54H22 did not show a HSR pattern, indicating their positions outside the amplicon (Fig. 1C and D). Furthermore, we determined gene dosages in Huh-7 cells at the STS markers RH53739, SHGC32910, SHGC24139, G36143, D14S941, RH45106, and RH45526 loci by real time quantitative PCR. (Fig.1B and E). The highest copy number was observed at the D14S941 and RH45106 loci. Taken together, we defined the smallest region of amplification between markers G36143 and RH45526. The extent of the amplicon was estimated to be 1.2 Mb. This region includes four known or predicted protein-coding genes, *HEATR5A*, *c14orf126*, *NUBPL*, and *ARHGAP5*.

3.2. Identification of candidate target genes in the 14q12 amplicon

The 14q12 region may harbor one or more genes (henceforth called 'target genes') that, when activated by amplification, play a role in carcinogenesis. A common criterion for designating a gene as a putative target is that amplification leads to its overexpression [8]. Using real-time quantitative PCR, we determined mRNA levels of all four genes within the amplicon in the 10 HCC cell lines and 10 ESCC cell lines. Among the four genes, *HEATR5A* and *ARHGAP5* were commonly overexpressed in Huh-7, T.T and TE-4 cells, the cell lines that were found to have copy number gains at 14q12 (Fig. 2A). These findings identified *ARHGAP5*, which encodes p190-B RhoGAP, as one of candidate target genes for the 14q12 amplicon.

We determined copy numbers of *ARHGAP5* in the 10 HCC and 10 ESCC cell lines by real-time quantitative PCR (Fig. 2B). Copy number changes were counted as gains if the results of the analysis for a given tumor cell type exceeded the twofold levels of the gene in normal cells. A copy number gain of *ARHGAP5* was observed in six (30%) of the 20 cell lines: Huh-7, T.T, KYSE140, TE-4, TE-6 and TE-10.

We examined the expression of p190-B RhoGAP protein in 4 HCC and 4 ESCC cell lines by immunoblot analysis. As shown in Fig. 2C, expression levels of p190-B RhoGAP were higher in cell lines exhibiting copy number gains of *ARHGAP5* (Huh-7, T.T, KYSE140, TE-4 and TE-10) than other cell lines that did not show gains (SNU354, Huh-1 and PLC/PRF/5).

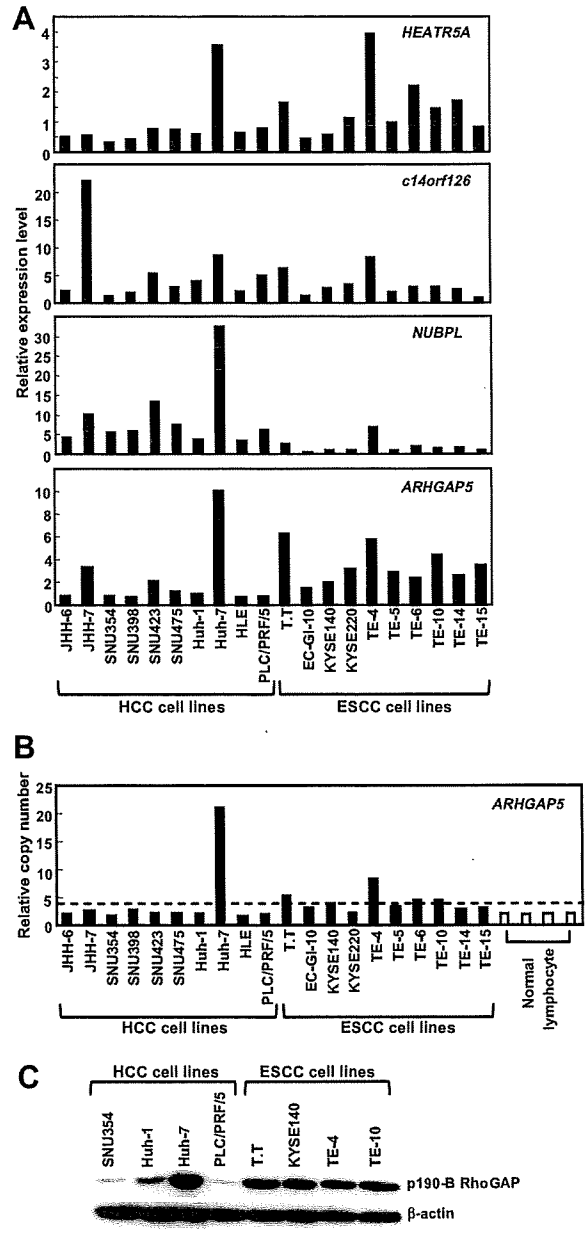

Fig. 2. Amplification and overexpression of *ARHGAP5* in Huh-7, T.T and TE-4 cell lines. (A) Relative expression levels of four genes (*HEATR5A*, *c14orf126*, *NUBPL* and *ARHGAP5*) within the 14q12 amplicon in 10 HCC and 10 ESCC cell lines as evaluated by real-time quantitative PCR. Results are presented as expression levels of each gene relative to a reference gene (*GAPDH*) to correct for variations in the amount of RNA. (B) Copy numbers at the *ARHGAP5* locus (the STS marker RH45106) in 10 HCC cell lines, 10 ESCC cell lines and four normal peripheral blood lymphocytes as measured by real-time quantitative PCR with reference to LINE-1 controls. Values are normalized such that the average copy number in genomic DNA derived from four normal lymphocytes has a value of 2. A value of 4, which is a twofold increase in copy number of normal lymphocytes, was used to determine the cut-off value for copy number gain, shown as a dotted line. (C) Levels of p190-B RhoGAP and β-actin, an internal control, determined by immunoblotting in 4 HCC and 4 ESCC cell lines.

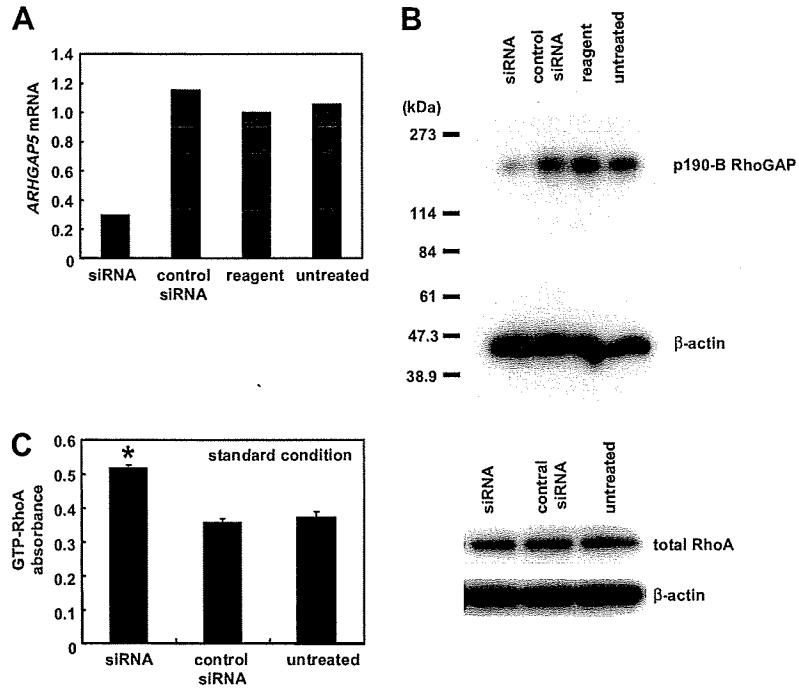

Fig. 3. Knockdown of *ARHGAP5* increases RhoA activity. (A) Relative expression levels of *ARHGAP5* mRNA as determined by real-time quantitative PCR. Huh-7 cells were treated with siRNA targeting *ARHGAP5*, negative control siRNA or transfection agent alone. Untreated cells were maintained under identical experimental conditions. Results are presented as a ratio between the expression level of *ARHGAP5* and that of a reference gene (*GAPDH*) to correct for variation in the amount of RNA. Relative expression levels were normalized such that the ratio in untreated cells was 1. (B) Levels of p190-B RhoGAP and β-actin, an internal control, determined by immunoblotting. (C) (*left*) Levels of RhoA activity under standard culture conditions (DMEM containing 10% FCS). RhoA activity was measured using a G-LISA kit (see Methods section). Values are represented as the mean ± S.D. Differences were analyzed by ANOVA ($^{*}P < 0.05$). (*right*) Total RhoA and β-actin were determined by immunoblotting.

3.3. Regulation of RhoA activity by p190-B RhoGAP in Huh-7 cells

To investigate the biological function of p190-B RhoGAP in HCC cells, knockdown of *ARHGAP5* expression in Huh-7 cells was carried out using RNAi. Following treatment of Huh-7 cells with siRNA targeting *ARHGAP5*, we observed a decrease in both *ARHGAP5* mRNA and p190-B RhoGAP protein levels relative to what was observed for cells receiving control siRNA, transfection agent alone or left untreated (Fig. 3A and B). Because p190-B RhoGAP negatively regulates RhoA activity, we examined the effect of the siRNA-mediated knockdown of *ARHGAP5* on RhoA activity. Huh-7 cells were treated with *ARHGAP5* siRNA or control siRNA or were left untreated. Cells were then cultured in DMEM containing 10% FCS for 48 h under standard conditions. RhoA activity levels were higher in cells treated with *ARHGAP5* siRNA than in cells treated with control siRNA or in untreated cells, whereas total RhoA levels were similar among the three groups (Fig. 3C). These findings suggest that overexpression of *ARHGAP5* contributes to downregulation of RhoA activity in Huh-7 cells.

3.4. Regulation of cell spreading by p190-B RhoGAP in Huh-7 cells

It is known that integrin-mediated adhesion regulates the activity of p190-B RhoGAP and RhoA [3,9]. We therefore examined the function of p190-B RhoGAP when Huh-7 cells were plated on fibronectin, a specific ligand for α5β1 integrin. Huh-7 cells treated with *ARHGAP5* siRNA or control siRNA or left untreated were suspended and plated on fibronectin. Prior to and during plating, cells were maintained in DMEM containing 1% FCS. Adhesion to fibronectin regulated RhoA activity in a triphasic or biphasic manner (Fig. 4A). Prior to plating (0 min), RhoA activity was significantly higher in *ARHGAP5* siRNA-treated cells than in control siRNA-treated cells or untreated cells. In *ARHGAP5* siRNA-treated cells, RhoA activity rapidly and transiently decreased (20 min). This initial decline was followed by an increase that peaked at 60 min. In the final phase, RhoA activity gradually decreased. In control siRNA-treated cells or untreated cells, an initial period of low RhoA activity was followed by a slight increase that peaked between 40–60 min and then returned to basal level. RhoA activity was significantly higher in *ARHGAP5* siRNA-treated cells than control siRNA-treated cells or untreated cells between 40 and 180 min. During the experimental period, expression of p190-B RhoGAP was continuously knocked down by *ARHGAP5* siRNA and total RhoA levels were similar among the three groups (Fig. 4A).

Because RhoA affects cell motility by stimulating reorganization of actin, we examined whether p190-B RhoGAP regulates the spreading of Huh-7 cells on fibronectin. Using immunofluorescence, we observed morphological changes in Huh-7 cells during attachment and spreading on fibronectin (Fig. 4B). Phalloidin staining revealed that *ARHGAP5* siRNA-treated cells exhibited more robust actin stress fibers but less membrane ruffling and protrusion at the cell periphery than control siRNA-treated cells or untreated cells. The actin stress fiber formation and reduced membrane ruffling and protrusion observed in *ARHGAP5* siRNA-treated cells corresponded with higher RhoA activity (Fig. 4)

p190-B RhoGAP was expressed diffusely in the cytoplasm of control siRNA-treated cells and untreated cells, whereas it was hardly detected in *ARHGAP5* siRNA-treated cells. We found that p190-B RhoGAP had partially translocated to the membrane protrusions in control siRNA-treated cells and untreated cells by 40 min after plating (Fig. 4B). Taken together, these findings suggest that RhoA inactivation by p190-B RhoGAP results in inhibition of actin stress fiber formation, enhanced membrane ruffling and protrusion and promotion of cell spreading on fibronectin.

3.5. Regulation of cell migration by p190-B RhoGAP in Huh-7 cells

To investigate the role of p190-B RhoGAP in cell motility, we performed a monolayer wound healing assay. Wound closure was delayed in *ARHGAP5* siRNA-treated cells relative to control siRNA-treated cells or untreated cells, whether cultured in the presence of mitomycin C or in its absence (Figs. 5A–E). Mitomycin C blocks mitosis and thus allows analysis of cell migration in the absence of cell proliferation. These results show that cell migration, rather than cell proliferation, is the major factor

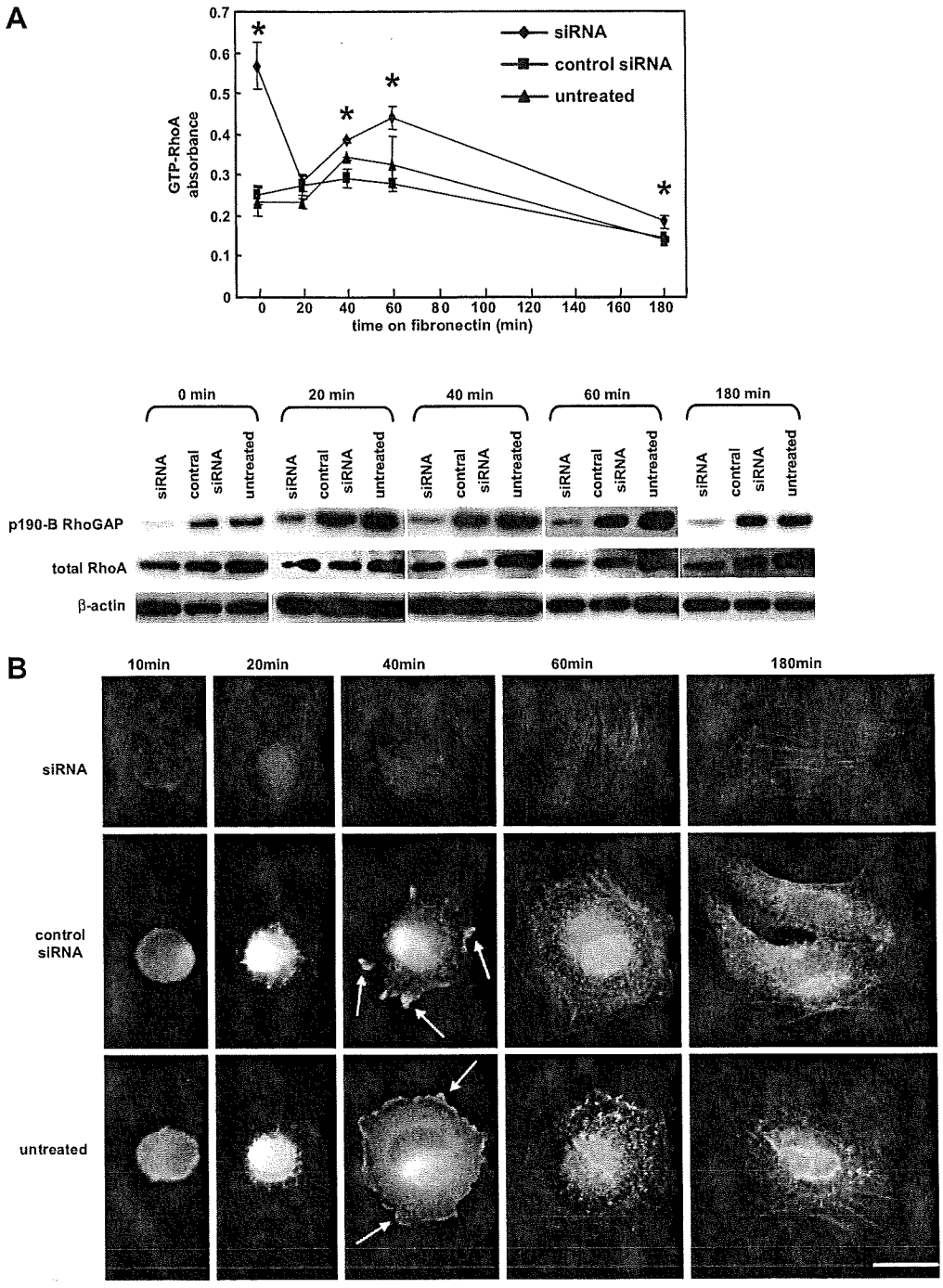

Fig. 4. Knockdown of *ARHGAP5* inhibits Huh-7 cell spreading on fibronectin. (A) Time course of changes in RhoA activity (*upper*) and levels of p190-B RhoGAP and total RhoA (*lower*). Huh-7 cells treated with siRNA targeting *ARHGAP5* or control siRNA or left untreated were plated on fibronectin as described in Materials and Methods and harvested at the indicated time points. Values of RhoA activity are represented as the mean ± SD. Differences were analyzed by ANOVA ($^{*}P < 0.05$). Levels of p190-B RhoGAP, total RhoA and β-actin were determined by immunoblotting. (B) Time course of cell spreading on fibronectin. Huh-7 cells treated with siRNA targeting *ARHGAP5* or control siRNA or left untreated were plated on fibronectin, fixed at the indicated time points and then triple-labeled with anti-p190-B RhoGAP, rhodamine-conjugated phalloidin and DAPI to reveal p190-B RhoGAP (green), actin filaments (red), and nuclei (blue), respectively. Arrows indicate p190-B RhoGAP on membrane protrusions. Scale bar = 10 μm.

in the retarded wound repair process in *ARHGAP5* siRNA-treated cells. Wound edge cells in *ARHGAP5* siRNA-treated cells had more abundant actin stress fibers but less membrane ruffling and protrusion at the leading edge than control siRNA-treated or untreated cells (Figs. 5F–H). p190-B RhoGAP translocated to the membrane protrusions of control siRNA-treated or untreated cells at the edge of the wound, but not in *ARHGAP5*-siR-

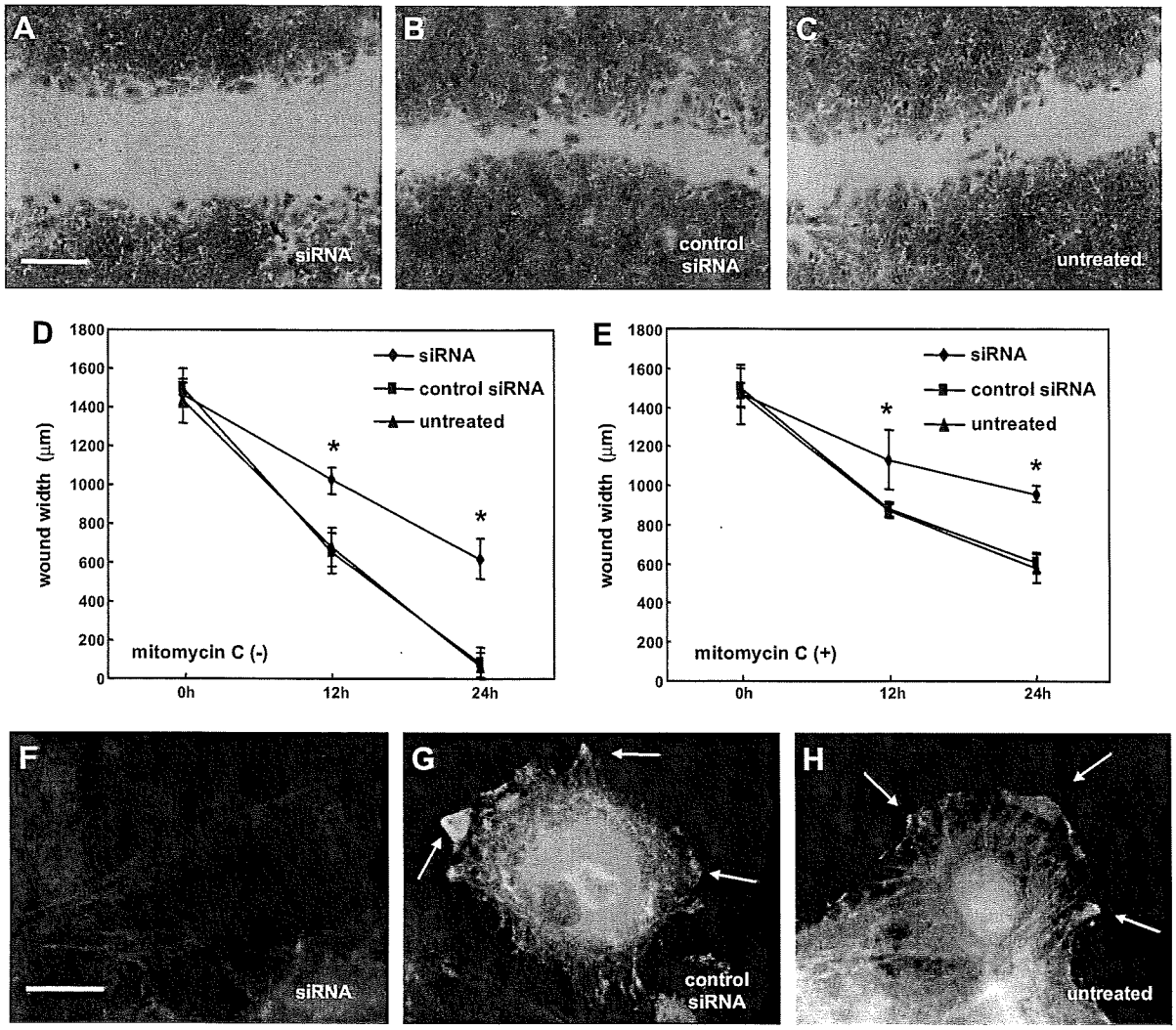

Fig. 5. Knockdown of *ARHGAP5* inhibits migration in Huh-7 cells. Monolayer wound healing assay in Huh-7 cells transfected with siRNA targeting *ARHGAP5* (A, F) or control siRNA (B and G), or left untreated (C and H). Cells were cultured in the absence (A–D, F–H) or presence (E) of mitomycin C. (A–C) Cells were allowed to migrate into a monolayer wound for 24 h and afterward stained with Giemsa stain. Original magnifications: 40×. Scale bar = 500 μm. (D and E) Cells were cultured in the absence (D) or presence (E) of mitomycin C. Wound widths were measured in three randomly chosen regions at the indicated time after wounding. Values are represented as the mean ± SD. Differences were analyzed by ANOVA ($^*P < 0.05$). (F–H) Wound edge cells were triple-labeled with anti-p190-B RhoGAP, rhodamine-conjugated phalloidin and DAPI to reveal p190-B RhoGAP (green), actin filaments (red) and nuclei (blue), respectively. Arrows indicate p190-B RhoGAP on membrane protrusions. Scale bar = 10 μm.

NA cells. Taken together, these observations suggest that the inhibition of RhoA activity by p190-B RhoGAP promotes cell movement and formation of membrane protrusions in migrating cells.

4. Discussion

We report here the amplification of *ARHGAP5* in HCC and ESCC cell lines. We undertook a molecular definition of the amplicon at 14q12 that is present in HCC and ESCC cell lines. The amplification at 14q12 has been reported in various types of cancers, including HCC [10], ESCC [7], nasopharyngeal carcinoma [11] and non-squamous cell lung carcinoma [12], although the frequency of 14q12 gain is low in primary HCC (4–6%) [10,13]. The range of the amplicon varies among these tumors, and their boundaries have not been determined in each case. Moreover, the target oncogene(s) in the amplified regions have not been fully identified. Here we defined the amplified regions in one HCC and two ESCC cell lines and narrowed the site of the amplification to a relatively short section. Among the four genes within the smallest region of the amplification, only *HEATR5A* and *ARHGAP5* were overexpressed in all the tested lines exhibiting copy number gains in the region; hence they are thought to be candidate targets in the amplicon. Of the two genes, we chose to focus further analysis on *ARHGAP5* because its protein product, p190-B RhoGAP, is purported to play an important role in dynamic cellular processes by regulating RhoA activity, while little is known about *HEATR5A*. During the preparation of this manuscript, amplification of *ARHGAP5* was reported in Huh-7 cells [14].

Although several studies have suggested an association of p190-B RhoGAP with tumors [15–17], its biological function in cancer cells is poorly understood. Therefore, using siRNA, we studied its function in Huh-7 cells, the HCC cell line that exhibited the most remarkable copy number gain and overexpression of *ARHGAP5*. We found that p190-B RhoGAP negatively regulates RhoA activity in Huh-7 cells cultured in medium containing 10% FCS and plated on fibronectin. Adhesion to fibronectin regulated RhoA activity in a triphasic or biphasic manner, as previously reported in fibroblasts [18,19]. Although some RhoA activity is required for migration, possibly to maintain sufficient adhesion to the substrate, high activity inhibits movement [19–22]. Our results showed that RhoA inactivation by p190-B RhoGAP results in inhibition of actin stress fiber formation, enhanced membrane ruffling and protrusion, and promotion of spreading and migration of Huh-7 cells. These findings are in agreement with results obtained from previous studies. A dominant negative (loss-of-function) p190-B RhoGAP mutation elevates RhoA activity in fibroblasts cultured on fibronectin and inhibits their migration, whereas overexpression of wild-type p190-B RhoGAP decreases RhoA activity, promotes the formation of membrane protrusions and enhances mobility [19]. Activation of β1 integrin signaling stimulates tyrosine phosphorylation of p190-B RhoGAP and promotes membrane protrusion at invadopodia in a melanoma cell line [17]. p190-B RhoGAP is also involved in invasion by breast cancer cells [15].

In conclusion, we have identified *ARHGAP5* as a probable target for the amplification at 14q12 detected in a subgroup of HCCs and ESCCs. Our results indicate that p190-B RhoGAP, the protein product of *ARHGAP5*, promotes cell spreading and migration in Huh-7 cells. Further studies are needed to determine the importance of *ARHGAP5* and p190-B RhoGAP in the development and progression of not only HCC and ESCC but also other types of tumors.

Conflicts of interest statement

My co-authors and I declare that we have no proprietary, financial, professional or other personal interest of any nature or kind in any product, service and/or company that could be construed as influencing the position presented in the manuscript entitled, "A novel amplification target, ARHGAP5, promotes cell spreading and migration by negatively regulating RhoA in Huh-7 hepatocellular carcinoma cells".

Acknowledgements

Supported by: Grants-in-Aid for Scientific Research (18390223) from the Japan Society for the Program of Science (to K.Yasui).

References

[1] A. Hall, Rho GTPases and the actin cytoskeleton, Science 279 (1998) 509–514.
[2] P.D. Burbelo, S. Miyamoto, A. Utani, S. Brill, K.M. Yamada, A. Hall, Y. Yamada, P190-B, a new member of the Rho GAP family, and Rho are induced to cluster after integrin cross-linking, J. Biol. Chem. 270 (1995) 30919–30926.
[3] W.T. Arthur, L.A. Petch, K. Burridge, Integrin engagement suppresses RhoA activity via a c-Src-dependent mechanism, Curr. Biol. 10 (2000) 719–722.
[4] G.C. Kennedy, H. Matsuzaki, S. Dong, W.N. Liu, J. Huang, G. Liu, X. Su, M. Cao, W. Chen, J. Zhang, W. Liu, G. Yang, X. Di, T. Ryder, Z. He, U. Surti, M.S. Phillips, M.T. Boyce-Jacino, S.P. Fodor, K.W. Jones, Large-scale genotyping of complex DNA, Nat. Biotechnol. 21 (2003) 1233–1237.
[5] Y. Nannya, M. Sanada, K. Nakazaki, N. Hosoya, L. Wang, A. Hangaishi, M. Kurokawa, S. Chiba, D.K. Bailey, G.C. Kennedy, S. Ogawa, A robust algorithm for copy number detection using high-density oligonucleotide single nucleotide polymorphism genotyping arrays, Cancer Res. 65 (2005) 6071–6079.
[6] Y. Inagaki, K. Yasui, M. Endo, T. Nakajima, K. Zen, K. Tsuji, M. Minami, S. Tanaka, M. Taniwaki, Y. Itoh, S. Arii, T. Okanoue, CREB3L4, INTS3, and SNAPAP are targets for the 1q21 amplicon frequently detected in hepatocellular carcinoma, Cancer Genet. Cytogenet. 180 (2008) 30–36.
[7] K. Yasui, I. Imoto, Y. Fukuda, A. Pimkhaokham, Z.Q. Yang, T. Naruto, Y. Shimada, Y. Nakamura, J. Inazawa, Identification of target genes within an amplicon at 14q12–q13 in esophageal squamous cell carcinoma, Genes Chromosomes Cancer 32 (2001) 112–118.
[8] C. Collins, J.M. Rommens, D. Kowbel, T. Godfrey, M. Tanner, S.I. Hwang, D. Polikoff, G. Nonet, J. Cochran, K. Myambo, K.E. Jay, J. Froula, T. Cloutier, W.L. Kuo, P. Yaswen, S. Dairkee, J. Giovanola, G.B. Hutchinson, J. Isola, O.P. Kallioniemi, M. Palazzolo, C. Martin, C. Ericsson, D. Pinkel, D. Albertson, W.B. Li, J.W. Gray, Positional cloning of ZNF217 and NABC1: genes amplified at 20q13.2 and overexpressed in breast carcinoma, Proc. Natl. Acad. Sci. USA 95 (1998) 8703–8708.
[9] E.A. Cox, S.K. Sastry, A. Huttenlocher, Integrin-mediated adhesion regulates cell polarity and membrane protrusion through the Rho family of GTPases, Mol. Biol. Cell 12 (2001) 265–277.
[10] C. Sakakura, A. Hagiwara, H. Taniguchi, T. Yamaguchi, H. Yamagishi, T. Takahashi, K. Koyama, Y. Nakamura, T. Abe, J. Inazawa, Chromosomal aberrations in human hepatocellular carcinomas associated with hepatitis C virus infection detected by comparative genomic hybridization, Br. J. Cancer 80 (1999) 2034–2039.
[11] Y.J. Chen, J.Y. Ko, P.J. Chen, C.H. Shu, M.T. Hsu, S.F. Tsai, C.H. Lin, Chromosomal aberrations in nasopharyngeal carcinoma analyzed by comparative genomic hybridization, Genes Chromosomes Cancer 25 (1999) 169–175.
[12] T. Yakut, H.J. Schulten, A. Demir, D. Frank, B. Danner, U. Egeli, C. Gebitekin, E. Kahler, B. Gunawan, N. Urer, H. Oztürk, L. Füzesi, Assessment of molecular events in squamous and non-squamous cell lung carcinoma, Lung Cancer 54 (2006) 293–301.
[13] P. Moinzadeh, K. Breuhahn, H. Stützer, P. Schirmacher, Chromosome alterations in human hepatocellular carcinomas correlate with aetiology and histological grade – results of an explorative CGH meta-analysis, Br. J. Cancer 92 (2005) 935–941.
[14] C. Schlaeger, T. Longerich, C. Schiller, P. Bewerunge, A. Mehrabi, G. Toedt, J. Kleeff, V. Ehemann, R. Eils, P. Lichter, P. Schirmacher, B. Radlwimmer, Etiology-dependent molecular mechanisms in human hepatocarcinogenesis, Hepatology 47 (2008) 511–520.
[15] S. Zrihan-Licht, Y. Fu, J. Settleman, K. Schinkmann, L. Shaw, I. Keydar, S. Avraham, H. Avraham, RAFTK/Pyk2 tyrosine kinase mediates the association of p190 RhoGAP with RasGAP and is involved in breast cancer cell invasion, Oncogene 19 (2000) 1318–1328.
[16] G. Chakravarty, D. Roy, M. Gonzales, J. Gay, A. Contreras, J.M. Rosen, P190-B, a Rho-GTPase-activating protein, is differentially expressed in terminal end buds and breast cancer, Cell Growth Differ. 11 (2000) 343–354.
[17] H. Nakahara, S.C. Mueller, M. Nomizu, Y. Yamada, Y. Yeh, W.T. Chen, Activation of beta1 integrin signaling stimulates tyrosine phosphorylation of p190RhoGAP and membrane-protrusive activities at invadopodia, J. Biol. Chem. 273 (1998) 9–12.
[18] X.D. Ren, W.B. Kiosses, M.A. Schwartz, Regulation of the small GTP-binding protein Rho by cell adhesion and the cytoskeleton, EMBO J. 18 (1999) 578–585.
[19] W.T. Arthur, K. Burridge, RhoA inactivation by p190RhoGAP regulates cell spreading and migration by promoting membrane protrusion and polarity, Mol. Biol. Cell 12 (2001) 2711–2720.
[20] K. Takaishi, T. Sasaki, M. Kato, W. Yamochi, S. Kuroda, T. Nakamura, M. Takeichi, Y. Takai, Involvement of Rho p21 small GTP-binding protein and its regulator in the HGF-induced cell motility, Oncogene 9 (1994) 273–279.
[21] A.J. Ridley, P.M. Comoglio, A. Hall, Regulation of scatter factor/hepatocyte growth factor responses by Ras, Rac, and Rho in MDCK cells, Mol. Cell. Biol. 15 (1995) 1110–1122.
[22] C.D. Nobes, A. Hall, Rho GTPases control polarity, protrusion, and adhesion during cell movement, J. Cell Biol. 144 (1999) 1235–1244.

Hepatol Int (2009) 3:445–452
DOI 10.1007/s12072-009-9135-0

ORIGINAL ARTICLE

Antiviral activity, dose–response relationship, and safety of entecavir following 24-week oral dosing in nucleoside-naive Japanese adult patients with chronic hepatitis B: a randomized, double-blind, phase II clinical trial

Michiko Shindo · Kazuaki Chayama · Satoshi Mochida · Joji Toyota · Eiichi Tomita · Hiromitsu Kumada · Osamu Yokosuka · Michio Sata · Norio Hayashi · Kazuyuki Suzuki · Takeshi Okanoue · Hirohito Tsubouchi · Hiroki Ishikawa · Taku Seriu · Masao Omata

Received: 21 January 2009 / Accepted: 7 May 2009 / Published online: 23 May 2009

Abstract
Purpose A randomized, double-blind, multicenter study (ETV-047) was conducted to evaluate the dose–response relationship of entecavir and compare its antiviral activity and safety with lamivudine in Japanese patients with chronic hepatitis B (CHB).
Methods One hundred thirty-seven nucleoside-naive adult patients with CHB were randomized to once-daily oral doses of entecavir 0.01, 0.1, or 0.5 mg or lamivudine 100 mg for 24 weeks. The primary efficacy end point used to evaluate the dose–response relationship was mean change from baseline in serum hepatitis B virus (HBV) DNA level at week 22, as determined by polymerase chain reaction assay.
Results Entecavir demonstrated a clear dose–response relationship, with mean change from baseline in serum

M. Shindo (✉)
Division of Liver Disease, Department of Internal Medicine, Akashi Municipal Hospital, 1-33 Takasyo-machi, Akashi-shi, Hyogo, Japan
e-mail: mshindo@skyblue.ocn.ne.jp

K. Chayama
Department of Medicine and Molecular Science, Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University, Hiroshima, Japan

S. Mochida
Department of Gastroenterology and Hepatology, Saitama Medical University, Saitama, Japan

J. Toyota
Department of Hepatology, Sapporo Kosei General Hospital, Hokkaido, Japan

E. Tomita
Department of Gastroenterology, Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan

H. Kumada
Department of Hepatology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan

O. Yokosuka
Department of Medicine and Clinical Oncology, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan

M. Sata
Department of Gastroenterology, Kurume University School of Medicine, Fukuoka, Japan

N. Hayashi
Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan

K. Suzuki
Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan

T. Okanoue
Department of Gastroenterology, Saiseikai Suita Hospital, Osaka, Japan

H. Tsubouchi
Department of Digestive Disease and Lifestyle-Related Disease, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima, Japan

H. Ishikawa · T. Seriu
Pharmaceutical Research Institute, Bristol-Myers Squibb Japan, Tokyo, Japan

M. Omata
Department of Gastroenterology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan

HBV DNA level of −3.11, −4.77, and −5.16 $\log_{10}$ copies/ml with entecavir 0.01, 0.1, and 0.5 mg, respectively. Entecavir 0.5 mg was superior to lamivudine 100 mg for the mean change in HBV DNA level (−5.16 vs. −4.29 $\log_{10}$ copies/ml; $P = 0.007$). The overall incidence of adverse events was comparable between treatment groups. Two patients discontinued treatment because of adverse events (one with liver cirrhosis [entecavir 0.5 mg] and one with grade 4 serum alanine aminotransferase (ALT) elevation, nausea, and malaise [lamivudine 100 mg]). Serum ALT flares were observed in four patients; flares were associated with 2 $\log_{10}$ reductions or more in HBV DNA level and resolved without dose interruption.

Conclusion Entecavir 0.01–0.5 mg is well tolerated and produces a dose-dependent reduction in viral load in nucleoside-naive Japanese patients with CHB. Compared with lamivudine 100 mg, entecavir 0.1 mg demonstrated noninferiority and entecavir 0.5 mg was superior in this population.

Keywords Chronic hepatitis B · Entecavir · Lamivudine · HBV DNA · ALT flare

Introduction

It is reported that more than 2 billion individuals worldwide have been infected with hepatitis B virus (HBV) and approximately 350 million people are long-term HBV carriers [1]. Chronic hepatitis B (CHB) is induced by chronic replication of HBV in the liver and has a poor prognosis, with 20–40% of infected individuals developing liver cirrhosis, noncompensated liver disorder, or hepatocellular carcinoma [2]. Treatment of CHB is aimed at sustained inhibition of HBV replication and remission of liver disease [3], ultimately preventing progression to liver cirrhosis or hepatocellular carcinoma [4].

Prior to the advent of the nucleoside analog lamivudine, interferon-α formed the mainstay of treatment, but this immunoregulatory cytokine requires parenteral administration and is poorly tolerated [5]. Lamivudine is well tolerated on oral administration and has been proven to be highly effective in the treatment of CHB, but the emergence of resistance mutations (including the YMDD motif) in the reverse-transcriptase domain of HBV polymerase frequently results in overt viral rebound and disease progression [6–9]. The novel nucleoside analog adefovir is effective against wild-type HBV and lamivudine-resistant strains and is well tolerated on long-term administration, but its clinical use is restricted by the need for renal monitoring in patients with impaired renal function [10].

Entecavir, a cyclopentylguanine-derived nucleoside analog and selective inhibitor of HBV replication, was approved by the U.S. Food and Drug Administration in 2005 for the treatment of CHB. Entecavir displays potent antiviral activity in the woodchuck and duck models of HBV infection [11, 12] and is reported to be 100- to 2,200-fold more potent than lamivudine and adefovir in inhibiting HBV replication in vitro [13, 14]. Phase II clinical trials of entecavir conducted in non-Japanese patients with CHB have demonstrated entecavir to be well tolerated and more effective than lamivudine [15, 16].

A global dose-finding study (ETV-005) conducted in lamivudine-naive patients with CHB compared three doses of entecavir (0.01, 0.1, and 0.5 mg once daily) with lamivudine 100 mg once daily over a 22-week treatment period. Entecavir showed a clear dose–response relationship and was well tolerated at all three dose levels; in addition, 0.1 and 0.5 mg of entecavir showed superior antiviral activity compared with 100 mg of lamivudine [15].

Phase I studies of single-dose (0.05–2.5 mg) and multiple-dose (0.1–1.0 mg daily) entecavir conducted in Japan have confirmed the drug's safety in healthy men. As in Caucasian populations, entecavir displayed linear plasma pharmacokinetics over a wide range of doses, including putative therapeutic doses (0.5 and 1.0 mg), in Japanese subjects; there was no evidence of significant ethnic differences in its pharmacokinetics and pharmacodynamics. Similar findings to those obtained in the global phase II clinical trials of entecavir might therefore be expected from corresponding studies conducted in Japanese patients.

To evaluate the dose–response relationship, the antiviral activity and safety of entecavir in Japanese CHB patients, we conducted a 24-week phase II study comparing entecavir (0.01, 0.1, and 0.5 mg daily) to lamivudine (100 mg daily).

Materials and methods

Study design

This randomized, double-blind, double-dummy study was conducted at 38 institutions in Japan from August 2003 to March 2005. Eligible patients comprised 20- to 75-year-old men and women with CHB who fulfilled the following criteria: (i) HBsAg-positive for 24 weeks or more or IgM HBcAb-negative with biopsy-confirmed CHB; (ii) HBeAg-positive or HBeAg-negative for 12 weeks or more; (iii) serum HBV DNA level 40 MEq/ml or more (143 pg/ml) by Quantiplex™ branched DNA hybridization method (bDNA assay) (≥ 7.6 $\log_{10}$ genome equivalent by the transcription-mediated amplification method or $\geq 10^{7.6}$ copies/ml by Roche Amplicor™ polymerase chain reaction method [PCR assay]) measured 2 weeks or more before screening and serum HBV DNA level 40 MEq/ml or more (by bDNA assay) at screening; (iv) serum alanine

aminotransferase (ALT) level 1.25–10 times the upper limit of normal (ULN); and (v) well-compensated liver disease with prothrombin time prolongation 3 s or less or international normalized ratio 1.5 or less, serum albumin level 3.0 g/dl or more, and total bilirubin 2.5 mg/dl or less (42.75 μmol/l). After a 6-week screening period, eligible patients were stratified according to HBeAg status and study site and randomized (1:1:1:1) to oral treatment with entecavir (0.01, 0.1, or 0.5 mg plus matching placebo capsule) or lamivudine (100 mg plus matching placebo tablet) once daily for 24 weeks. All doses were administered at fixed times of the day, avoiding the 2 h before and after meals. Pregnant women were excluded from the study, as were patients with liver cirrhosis, patients with a history or evidence of variceal bleeding, patients with hepatic encephalopathy or ascites requiring diuretics, or patients with paracentesis. Patients with other liver disease (e.g., autoimmune hepatitis) were excluded from the study. In addition, patients were excluded if they had a serum creatinine level more than 1.5 × ULN, hemoglobin level less than 10.0 g/dl, platelet count less than 70,000/mm^3, granulocyte count less than <1,500/mm^3 or plasma α-fetoprotein level more than 100 ng/ml, a history of allergy induced by nucleoside analog or exposure to nucleoside analogs, a recent history (previous 24 weeks) of treatment with immunosuppressives or interferon-α/β, or current treatment of CHB.

Treatment efficacy was assessed after 22 weeks, and all eligible patients who completed 24 weeks of blinded therapy were given the option of enrolling in a separate entecavir trial. Patients who discontinued therapy prematurely were followed up for 24 weeks postdosing. Patients began anti-HBV therapy as recommended by their physician during the postdosing follow-up period.

Informed consent was obtained from all patients in writing prior to their inclusion in the study. The study was conducted in accordance with the principles of the Declaration of Helsinki and Good Clinical Practice guidelines and notifications were issued by the Ministry of Health and Labor.

Efficacy and safety assessment

The primary efficacy end point for the evaluation of the dose–response relationship of entecavir was the change from baseline in mean serum HBV DNA level at week 22, as determined by PCR assay. Secondary efficacy end points for the assessment of the noninferiority of entecavir at each dose to lamivudine included the change from baseline in mean serum HBV DNA level at week 22, as determined by PCR assay, the percentage of patients with a reduction in serum HBV DNA level 2 $\log_{10}$ copies/ml or more or a serum HBV DNA level below the limit of detection (400 copies/ml by PCR assay; 2.5 pg/ml or 0.7 MEq/ml by bDNA assay) at week 22, the percentage of patients with HBeAg loss, the percentage of patients with HBeAg seroconversion (HBeAg loss and appearance of HBe-antibody), the percentage of patients achieving ALT normalization (World Health Organization grade 0: <1.25 × ULN), and the percentage of patients achieving a protocol-defined response (HBV DNA level <0.7 MEq/ml by bDNA assay, HBeAg negativity and serum ALT level <1.25 × ULN for HBeAg-positive patients; HBV DNA level <0.7 MEq/ml by bDNA assay and serum ALT level <1.25 ULN for HBeAg-negative patients) at week 22. The incidence of genotypic drug resistance was also assessed in patients who had a 1 $\log_{10}$ copies/ml or more increase in HBV DNA by PCR from nadir while on study drug.

Based on the results of the global dose–response study of entecavir conducted in nucleoside-naive patients (ETV-005 study) [15], noninferiority of entecavir 0.1 or 0.5 mg compared with lamivudine (100 mg) was confirmed if the upper 95% confidence interval (CI) for the difference in mean HBV DNA levels at week 22 was 0.8 $\log_{10}$ copies/ml or less.

Assay methods

Serum HBV DNA level was determined by Roche Amplicor™ PCR assay (Roche Diagnostics K.K., Tokyo, Japan) and Quantiplex™ (Chiron) bDNA assay. Clinical laboratory tests, serum HBV DNA assays, and HBV serology were performed at the central clinical laboratory designated by the trial sponsor. Genotypic analysis of HBV isolates was performed using samples collected from patients on the first day of treatment. Genotypic analysis of HBV DNA polymerase was performed at SRL Inc. (Tokyo, Japan).

Statistical analysis

Numerical data were expressed by descriptive statistics. Serum HBV DNA level, a continuous variable, was analyzed after logarithmic transformation. For treatment group, comparisons of continuous variables, analysis of variance models, incorporating baseline HBV DNA level and HBeAg status as covariates were employed. For intertreatment comparisons of binary data, Cochran–Mantel–Haenszel tests were employed using baseline HBeAg status as a stratification factor. For analysis of dose–response relationships, Student's t test was applied to linear regression plots of serum HBV DNA level against log dose. A two-sided $P < 0.05$ was taken to indicate statistical significance. For analysis of dose–response relationships using efficacy data, a two-sided $P < 0.05/3$ was taken to

indicate statistical significance following Bonferroni adjustment.

Results

Study population and demographic characteristics

A total of 137 patients, including 20- to 73-year-old men and women, met the study eligibility criteria and were randomized to the following treatment groups: entecavir 0.01 mg ($n = 35$), entecavir 0.1 mg ($n = 34$), entecavir 0.5 mg ($n = 34$), and lamivudine 100 mg ($n = 34$). Three patients (two in the entecavir 0.5 mg group and one in the lamivudine 100 mg group) discontinued the study prematurely; the reasons for discontinuation were noncompliance (one patient in the entecavir 0.5 mg group) and adverse events (liver cirrhosis in one patient [entecavir 0.5 mg group] and grade 4 serum ALT elevation with nausea and malaise in one patient [lamivudine 100 mg group]). Accordingly, a total of 134 patients (entecavir 0.01 mg group, 35 patients; entecavir 0.1 mg group, 34 patients; entecavir 0.5 mg group, 32 patients; and lamivudine 100 mg group, 33 patients) completed 24 weeks of treatment and were included in the efficacy assessment.

The four treatment groups were matched with respect to gender, age, body weight, and proportion of HBeAg-positive patients (Table 1). Serum HBV DNA levels by PCR assay (mean ± SD) at baseline were 7.94 ± 0.87, 8.09 ± 1.05, 8.39 ± 0.73, and 7.94 ± 0.83 $\log_{10}$ copies/ml for the entecavir 0.01, 0.1, and 0.5 mg and lamivudine 100 mg groups, respectively. With regard to HBV genotype, 124 patients were genotype C, 6 patients were genotype A, 5 patients were genotype B, and 2 patients were genotype F. All patients were nucleos(t)ide-naive and none had been pretreated with interferon therapy.

Virologic response

Mean changes (from baseline) in serum HBV DNA level at week 22 were −3.11, −4.77, and −5.16 $\log_{10}$ copies/ml with entecavir 0.01, 0.1, and 0.5 mg, respectively (Fig 1; Table 2). Estimated differences in serum HBV DNA levels between the 0.1 and 0.5 mg entecavir groups and the low-dose entecavir group (0.01 mg) were determined after adjustment for baseline level and HBeAg status. Estimated intertreatment group differences (adjusted 95% CI) were −1.61 (−2.20 to −1.02) $\log_{10}$ copies/ml between the entecavir 0.01 and 0.1 mg groups and −1.95 (−2.53 to −1.37) $\log_{10}$ copies/ml between the entecavir 0.5 and 0.01 mg groups; both of these differences were statistically significant ($P < 0.0001$). In contrast, the difference in serum HBV DNA levels between the high-dose (0.5 mg) and medium-dose (0.1 mg) entecavir groups was not statistically significant (estimated difference [adjusted 95% CI] −0.23 [−0.69 to 0.23] $\log_{10}$ copies/ml). Taken together, these results demonstrate the superiority of high- and medium-dose entecavir (0.1 and 0.5 mg) compared with low-dose entecavir (0.01 mg) in terms of viral load reduction (Table 3). Linear regression analyses indicated a

Table 1 Baseline demographics and clinical characteristics of treated subjects

	ETV 0.01 mg ($n = 35$)	ETV 0.1 mg ($n = 34$)	ETV 0.5 mg ($n = 34$)	LVD 100 mg ($n = 34$)
Male, *n* (%)	25 (71.4)	23 (67.6)	23 (67.6)	28 (82.4)
Female, *n* (%)	10 (28.6)	11 (32.4)	11 (32.4)	6 (17.6)
Age (years), mean ± SD	42.0 ± 12.5	40.1 ± 9.8	39.8 ± 10.4	42.3 ± 12.6
Weight (kg), mean ± SD	66.2 ± 12.5	64.6 ± 11.9	65.3 ± 11.1	64.4 ± 9.0
Ethnicity Japanese, *n* (%)	35 (100)	34 (100)	34 (100)	34 (100)
HBV DNA ($\log_{10}$ copies/ml by PCR), mean ± SD	7.94 ± 0.87	8.09 ± 1.05	8.39 ± 0.73	7.94 ± 0.83
HBeAg positive, *n* (%)	30 (85.7)	30 (88.2)	30 (88.2)	31 (91.2)
ALT (IU/l), mean ± SD	150.1 ± 111.8	162.0 ± 127.1	142.4 ± 82.2	185.0 ± 130.8
AST (IU/l), mean ± SD	83.2 ± 40.0	114.3 ± 109.4	81.0 ± 43.0	121.6 ± 85.4
Total bilirubin (mg/dl), mean ± SD	0.65 ± 0.25	0.56 ± 0.15	0.66 ± 0.25	0.71 ± 0.28
HBV genotype (%)				
C	32 (91.4)	30 (88.2)	32 (94.1)	30 (88.2)
A	1 (2.86)	2 (5.88)	1 (2.94)	2 (5.88)
B	1 (2.86)	1 (2.94)	1 (2.94)	2 (5.88)
F	1 (2.86)	1 (2.94)	0	0

ETV entecavir; *LVD* lamivudine

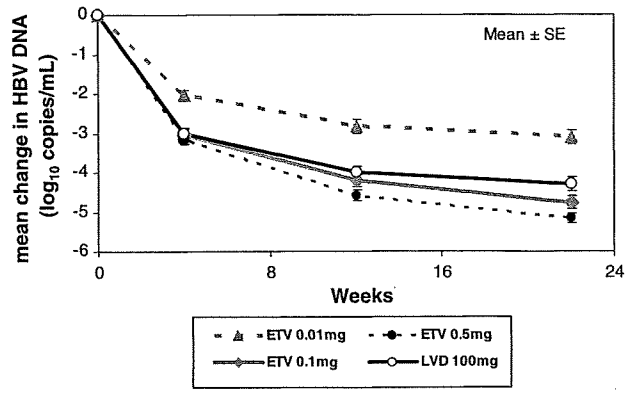

Fig. 1 Mean change from baseline in serum HBV DNA level by PCR assay through 22 weeks in patients treated with entecavir (ETV) 0.01, 0.1, and 0.5 mg and lamivudine 100 mg. Mean change in serum HBV DNA level was plotted as a function of time after the initiation of the protocol therapy (weeks). Data expressed as mean ± SE

significant dose–response relationship between log_{10} entecavir dose and reduction in log_{10} serum HBV DNA level ($P < 0.0001$).

Mean change (from baseline) in serum HBV DNA level at week 22 for the lamivudine 100 mg group was −4.29 log_{10} copies/ml (Fig. 1; Table 2). Estimated mean differences (95% CI) in serum HBV DNA level (after adjustment for baseline level and HBeAg status) were −0.39 (−0.83 to 0.05) log_{10} copies/ml between the entecavir 0.1 mg and lamivudine 100 mg groups and −0.62 (−1.06 to −0.18) log_{10} copies/ml between the entecavir 0.5 mg and lamivudine 100 mg groups, indicating the noninferiority of the entecavir 0.1 and 0.5 mg groups to the lamivudine 100 mg group and the superiority of the entecavir 0.5 mg group to the lamivudine 100 mg group ($P = 0.007$) (Table 2). In contrast, the entecavir 0.01 mg group was significantly inferior to the lamivudine 100 mg group (estimated mean difference = 1.20 [0.69–1.71]; $P < 0.0001$) (Table 2).

The secondary efficacy end point of a reduction in serum HBV DNA level 2 log_{10} copies/ml or more or HBV DNA level less than 400 copies/ml by PCR assay was achieved by 88.6% of patients in the entecavir 0.01 mg group and by 100% of patients in the entecavir 0.1 and 0.5 mg groups at week 22. Ninety-seven percent of patients in the lamivudine 100 mg group achieved this end point at week 22. HBV DNA level less than 0.7 MEq/ml by bDNA assay was achieved by 65.7%, 94.1%, and 100% of patients in the 0.01, 0.1, and 0.5 mg entecavir groups, respectively, and by 93.9% of patients in the lamivudine 100 mg treatment group.

Serologic response

Among HBeAg-positive patients, there was no significant difference between seroconversion rates at week 22 for the entecavir 0.01, 0.1, and 0.5 mg treatment groups (10.0%, 13.3%, and 3.6%, respectively) versus the lamivudine 100 mg treatment group (3.3%; Table 2). All patients who lost HBeAg also experienced HBeAg seroconversion.

Biochemical response

At baseline, elevated serum ALT levels (>1.25 × ULN) were present in more than 90% of patients in all four treatment groups. At week 22, normal serum ALT levels (World Health Organization grade 0, <1.25 × ULN) were recorded in similar proportions of patients in the entecavir 0.01, 0.1, and 0.5 mg treatment groups (75.0%, 85.3%, and 80.0% of patients, respectively) and the lamivudine treatment group (78.1% of patients), with no significant intergroup difference (Table 2).

Response

Response (HBV DNA level <0.7 MEq/ml by bDNA assay, HBeAg loss, and serum ALT level <1.25 × ULN for HBeAg-positive patients and HBV DNA level <0.7 MEq/ml by bDNA assay and serum ALT <1.25 × ULN for HBeAg-negative patients) was achieved by 14.3%, 20.6%, and 15.6% of patients in the entecavir 0.01, 0.1, and 0.5 mg

Table 2 Differences in HBV DNA levels between entecavir dose groups by PCR at week 22 in evaluable subjects

	0.1 mg ETV–0.01 mg ETV ($n = 34$, $n = 35$)	0.5 mg ETV–0.01 mg ETV ($n = 32$, $n = 35$)	0.5 mg ETV–0.1 mg ETV ($n = 32$, $n = 34$)
Estimated difference[a] (log_{10} copies/ml)	−1.61	−1.95	−0.23
Standard error	0.24	0.24	0.19
95% Confidence interval[b]	−2.20, −1.02	−2.53, −1.37	−0.69, 0.23
P-value	<0.0001	<0.0001	0.227

[a] Estimated differences are regression-adjusted for baseline serum HBV DNA and HBeAg status

[b] 95% Confidence interval is adjusted by modified Bonferroni procedures

ETV entecavir

Table 3 Virology and biochemical responses at week 22 and comparison of entecavir treatment groups with lamivudine in evaluable subjects

Response	ETV 0.01 mg ($n = 35$)	ETV 0.1 mg ($n = 34$)	ETV 0.5 mg ($n = 32$)	LVD 100 mg ($n = 33$)
HBV DNA by PCR assay				
Reduction from baseline at week 22 ($\log_{10}$ copies/ml), mean ± S.E.	−3.11 ± 0.18	−4.77 ± 0.17	−5.16 ± 0.13	−4.29 ± 0.18
HBV DNA estimated difference[a] (vs. LVD) ($\log_{10}$ copies/ml)	1.20	−0.39	−0.62	–
Standard error	0.26	0.22	0.22	–
95% Confidence interval	0.69, 1.71	−0.83, 0.05	−1.06, -0.18	–
P-value	<0.0001[b]	0.081	0.007[c]	–
HBV DNA by Roche Amplicor™ PCR assay				
Change in $\log_{10}$ HBV DNA reduction >2 or HBV DNA <400 copies/ml at week 22, *n* (%)	31 (88.6)	34 (100)	32 (100)	32 (97.0)
P-value (vs. LVD)	0.206	NR[d]	NR[d]	–
HBV DNA by Quantiplex assay				
HBV DNA <0.7 MEq/ml (2.5 pg/ml) at week 22, *n* (%)	23 (65.7)	32 (94.1)	32 (100)	31 (93.9)
P-value (vs. LVD)	0.002	1.000	NR[d]	–
Normalization of ALT levels[e]				
At week 22, *n/n* with abnormal baseline (%)	24/32 (75.0)	29/34 (85.3)	24/30 (80.0)	25/32 (78.1)
P-value (vs. LVD)	0.842	0.439	0.880	–
Loss of HBeAg and seroconversion at week 48[f]				
HBeAg loss, n/n HBeAg positive at baseline (%)	3/30 (10.0)	4/30 (13.3)	1/28 (3.6)	1/30 (3.3)
HBeAg seroconversion	3/30 (10.0)	4/30 (13.3)	1/28 (3.6)	1/30 (3.3)
P-value (vs. LVD)	0.605	0.350	1.000	–
Response[g] at week 22, *n* (%)	5 (14.3)	7 (20.6)	5 (15.6)	3 (9.1)
P-value (vs. LVD)	0.735	0.190	0.480	–

[a] Estimated differences are regression-adjusted for baseline HBV DNA and HBeAg status

[b] Two-sided test indicates inferiority of the entecavir 0.01 mg dose

[c] Two-sided test indicates superiority of the entecavir dose

[d] Not reported because expected counts <5

[e] WHO grade 0, ALT <1.25 × upper limit of normal

[f] Seroconversion was defined as disappearance of HBe-antigen and appearance of HBe-antibody

[g] Response was defined as HBV DNA levels <0.7 MEq/ml, HBeAg negativity and ALT <1.25 × ULN for HBeAg-positive patients and HBV DNA levels <0.7 MEq/ml and ALT <1.25 × ULN for HBeAg-negative patients

ETV entecavir

LVD lamivudine

treatment groups, respectively, and by 9.1% of patients in the lamivudine treatment group at week 22, and there were no significant differences in the rates of response between the four treatment groups (Table 2).

Resistance analysis

During the treatment period, serum HBV DNA level increased by 1 $\log_{10}$ copies/ml or more from its nadir in one patient in the entecavir 0.01 mg group and one patient in the lamivudine 100 mg group. Nucleotide sequence analysis of the DNA polymerase coding region, using viral samples collected from these two patients at day 1 and at week 22, revealed no lamivudine-resistance substitutions (rt180 and rt204 amino acid residues) [17, 18] or entecavir-resistance substitutions (rt184, rt202, and rt250 amino acid residues) [19].

Safety

During the study, adverse events were experienced by similar proportions of patients in the entecavir 0.01, 0.1, and 0.5 mg groups and the lamivudine 100 mg treatment group (97.1%, 97.1%, 91.2%, and 100.0%, respectively). Most adverse events were of mild or moderate intensity (grade 1/2) and transient. The most frequently reported adverse events (affecting ≥ 10% of patients in any one treatment group) included nasopharyngitis, headache, and